

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470700606		
法人名	有限会社 サンテ		
事業所名	グループホーム やまぶき		
所在地	三重県松阪市駅部田町473番地		
自己評価作成日	平成25年8月26日	評価結果市町提出日	平成25年10月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470700606-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470700606-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25 年 9 月 10 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各個人の趣味を取り入れた作品作りや、フロアーには職員と入居者様が協同で制作した作品などを掲示したりしています。(例)花火、習字、ビーズ作品、絵画、編み物等  
食事の材料には旬の野菜や果実を利用者様に直接ふれて頂き、季節感を感じてもらっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が経営母体である為、医療のバックアップ体制が充実され、家族からも安心であると感謝されている。開設10周年を向かえ更に地域密着を旨とする為、ケアの現場を再確認し職員の研修を充実し、ケアの改革を計画している。また、栄養士、調理師によるバランスの取れた食事が提供され利用者はいつも完食である。郊外の密集した住宅地の中にある事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	最も目に入りやすい入口の壁に基本方針や理念を掲示し、常に心がけるようにしている。又個人それぞれが理念カードを携帯することにより理念と介護が実践につながるようになっている	理念は常に意識できるリビングフロアに掲示すると共に、理念カードを作成し名札に携帯している。ケア会議で毎月、理念について実践されているかどうか見直しを兼ねて認識を高め共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年1回行われる町内の清掃活動に参加している。又地域内の散歩を出来るだけ多くし、その際住民の方や子供たちとも交流している	事業所は町内の行事・清掃活動・バザー・夏祭り等に参加し、地域住民は事業所の防災訓練・花火大会に参加している。地域の周りを散歩しながら農作業の方々にも挨拶を交わし、野菜など頂き、食材の一部となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年実施される中学生の職場体験学習「わくわくワーク」を受け入れ、学生や教師の方々にも認知症についての理解をしてもらう機会としている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに行い、施設の様況、入居者の状況やエピソード等も取り入れ、又職員の研修状況等について、報告し出席者から多方面に渡って意見や対応の仕方、アドバイス等をいただいている	奇数月に開催し、行事・現状報告等行ない意見交換をしているが、事業所が依頼した参加者に限られ、地域自治会・全家族には開催案内をしていない。	幅広い立場の人が参加する会議としてメンバーの中にも地域代表者等の参加が望まれる。また、運営を担えるように地域代表者・見識者・全ての家族等に運営推進会議の意義を説明し、参加開催される事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所介護高齢課や職員、地域包括センターの職員より情報や意見、指導等も受けている	介護保険変更届、介護情報、相談等に訪れている。また、運営推進会議で市担当者とは意見交換をし、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	過去に拘束について、失敗をしている経緯があることから職員全員が身体拘束は絶対しないという強い信念を持って介護している。又事故が予測される時には事前に職員が話し合いをして防止策を実践している	過去の拘束の経験(4点柵)をかね、カンファレンスでヒヤリハット・事例等で検討し、拘束をしない様実践に努めている。	身体拘束をしないケアを更なる研修と職員のスキルアップでリスクに惑わされないケアの体制作り、高齢者虐待防止関連法の理解を含め継続的な研修実施を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	以前に施設内研修を行ったことで、虐待については絶対に行ってはならない事と認識している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の1名の方は成年後見人が定められている為、制度については軽く知っている程度である。この制度についての研修にはなかなか参加していないのが現状で、今後は積極的に参加していこうと思っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には重要事項説明書、利用契約書、終末期における指針、介護職員処遇改善等について説明し、同意をいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の議事録は入居者家族がいつでも見られるように玄関に置いている。又家族の意見や要望等は面会時や介護サービス担当者会議のあり、家族も含め介護に対する意見を聞いている。会議に出席できない家族には電話にて意見や要望等を聞いて計画に反映させている	電話・面会時に、管理者・職員で意見・要望を聞いているが、個々ケアの意見が多い。最近では防災に関して備蓄はどうか、利用者の安全対策等意見も出ており、運営推進会議で検討し報告されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回フロア会議を開催し、職員の意見や要望、提案等を聞く機会としている。又管理部長にも意見や相談できる機会はある	毎月カンファレンスで意見・提案の時間を設けており、当日不参加の職員は直接管理者に提案している。最近では設備環境の整備についての意見が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員一人一人の勤務に関する訴え(給与、勤務時間、労働条件等)にはできる限り話を聞く。管理部長に報告し、改善できる事については改善をしていただき、職員のモチベーションが向上するようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修はできる限り受講しており、受講後は施設内において、伝達研修を行っている。本年はスキルアップ研修として4回に分けた研修が計画され、現在2回は終了している。終了後は研修所感を必ず提出している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修会の際には他施設の職員と交流し、アドバイスしていただいたり、参考にさせていただいたりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当時は日が浅いため、環境にも適応しにくいのは当然であり、職員は出来るだけ不安や混乱が軽減できるような対応を心がけている(笑顔でやさしい態度、親切な声かけ、わかりやすい説明、誘導等)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は、家族や今まで利用されていた介護施設のケアマネージャー等からできる限り本人のこれまでの生活環境や生活スタイル等の情報を収集し、これらを継続しながら介護を行っていくようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族とケアマネージャーが先ず話し合いをされる		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、各人ができることは、お願いする形で依頼し、声かけしながら一緒に行い終了時は感謝の言葉をかけている(洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理の下準備、食器洗い、雑巾縫い等)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所時には双方の間に入り、本人と家族が今までどおり変らない関係である事が自覚していただけるような対応に心がけるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚その他のかわりのあつた方々の面会がある	知人が尋ねてきたり、遠隔地の孫に手紙・年賀状を出している(必ず返事が来るよう事業所で支援している)。以前、通っていた図書館、美容院やお墓参り、帰宅願望で自宅に行ったついでに友人に会ったりして支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ある特定の入居者に対して攻撃的な言葉や態度をとる入居者がいる。そのような場面に接した時は中に入り、うまく調整している。又日々の心身の状態や、気分、機嫌、感情の変化等に気を配り、他の入居者が嫌な思いをしないよう配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が病院に入院した場合には職員が適時、お見舞いに行き経過を見守ったり家族と連絡を取り合い、安心できるよう支援している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意思が伝えられる入居者にはプラン作成会議に参加していただき、希望や意向を聞いて計画作成している	日常会話の中で時間を作り(居室、利用者同士の団欒中等)把握に努めている。また、時おり家族への電話連絡時や、サービス会議開催時を利用して把握をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、家族に今までの暮らし方へ生活環境等あらゆる方面からの情報を得るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各人の生活サイクルの中、その日の心身の状態に応じて、計画に取り入れている事を実施している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎のプラン作成時の前に、開催するサービス担当者会議には、本人、家族、ケアマネジャー、計画作成担当者、管理者、担当介護士等が参加し、要望、希望、前回の評価等を話し合い次の介護計画を作成している	サービス担当者会議を開き(家族・担当者職員出席)計画書を作成している。計画書作成後サービス内容を毎日、カルテでチェックし達成度を確認している。3ヶ月毎にモニタリングをし再度会議を開き計画の見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別のカルテに毎月、バイタルサイン、心身の状態、本人の言動や介護者の気づき等を記録し、それを他の職員が読むことによって、共有し、計画作成時にも活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望等にできる限り沿うよう対応し満足してもらえるように、配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の行事(花見、外食等)への参加		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の病状に応じ、かかりつけ医、大病院、協力病院、在宅医療医師等に対応している。緊急性でない場合は事前に家族と相談して受診医を決定している	かかりつけ医、在宅医療医、協力医へ受診は様々であるが事業所でその都度、受診支援している。受診後は家族に電話で報告をしている。定期往診は、協力医が月2回、在宅医療医が月1回あり、夜間緊急時も支援できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の異常や変化に気付いた時、介護職員は施設内の看護師に報告、相談し対処している。看護師が受診が必要と判断した時には医療機関を受診に行く		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当施設のケアマネージャーが入居者の入退院時、病院の担当医、ケースワーカー、ナース等と話す機会を持ち、情報交換し、早期退院できるようアプローチしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関する話し合いは、一部の入居者家族とは話し合いが出来ている。在宅医療医師の協力もあるが、看取りについては今後も十分な検討が必要と思われる	入居時に看取りの指針で同意書を取り交わしている。重度化や終末期には協力医・在宅医療医に指示を仰ぎ、職員は外部研修に参加し支援に取り組んでいる。過去に4名の看取り支援の経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練が出来ていない現状であり、計画を立て実施の必要性大と考えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回災害時(火災、地震を想定)の避難誘導訓練を行っている。地域住民の方々への協力依頼も出来ており、「災害時地域応援依頼連絡先」リストが作成してある	年2回消防署立会いの下、消火・通報・避難訓練を行ない、毎月、事業所独自で近くの公園(地域の避難場所)に、利用者の非常持ち出し袋・緊急連絡先等を記入した名札をつけて避難訓練をしている。また、備蓄を常備し、地域の応援依頼連絡先も整備出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を尊重する事、又プライバシーを確保する事については、全職員意識はしているが、時には言葉使いが適切でなかったり、プライバシーの配慮に欠けるときもある	トイレのドアの開閉や脱衣場の目隠し等に配慮をしている。呼称も入居時に家族に確認しているが事業所としては、さん付けにしている。また、言葉使いも、落ち込まない・ショックを受けるような言葉は言わないように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や表出ができる入居者に対しては、希望や要望、又不満や不安等会話を通して言ってもらえる様、働きかけている。自分の思いを表出できない人に対しては表情や態度、言動等から職員は推測している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人が好きなき事や喜ばれるレクリエーション等を職員は提供している。又「今日は何がしたい？」等と言葉かけをして、リクエストの多いものを取り入れたりもしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に入居者の身だしなみには注意を払い、季節に適した衣服、又色彩なども考えたコーディネートを本人と共に選択したりしている。外出時は特に身だしなみに配慮している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々栄養士が一人一人に何が食べたいかを聞き、献立に加えている。又食事の下準備やテーブル拭き、食器洗い等の手伝いを依頼し職員と共に行っている	栄養士・調理師による食事が提供され、バランス・味付けの工夫を行ない、いつも完食されている。誕生日には好きな物をメニューに加えた特別食が用意されている。一部の利用者は野菜を刻んだり食器を洗う等、職員と共に行なっている。また、月1回寿司・和菓子などの外食にも出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量については、こまめな補給に心がけ、声かけしながら援助している。えん下障害のある人にはラコール等の補助食等も追加しながら栄養低下にならないよう注意している。入居者一人一人の状態に応じ、トロミをつけたり、粥食、ペースト状等に工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人一人の状態に合わせ、毎食後のうがい、歯磨き、義歯の取り扱い等の支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しながら、声かけや誘導により、排泄支援を行っている。入所時はリハビリパンツであった人が布パンツに変更となっている人もある	リハビリパンツの方が大半で24時間の排泄パターンを掴み、排泄チェック表によりトイレへの誘導支援を行ない、自立の継続に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便のパターンを把握しながら、排便調節を行っている。便秘化傾向のある人は水分量を多くする。食物の工夫(ヨーグルト、牛乳等)をし、効果がない時は緩下剤や排便座薬浣腸等を実施することもある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週4回午後実施している。入浴拒否等があった時は状況により、翌日にする等している。又入浴はゆとりをもって楽しめるよう、本人のペースに合わせている	週2回入浴支援をしているが、希望があればいつでも入浴可能である。地方の温泉の入浴剤を利用した、柚子湯もある。拒否する利用者には無理強いをせず、時間を置いて声掛けし入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就床時間や起床時間は決めていない。一人一人のペースに合わせている。午睡をされる方もある。気持ちよく眠っていただく支援として居室の温度を調整(エアコン使用)し適時管理している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は薬剤情報提供書を個人のファイルに綴じ、常時職員が確認をしている。服薬の際は必ず飲み込んだことを確認している。処方の変更時は副作用や状態の変化等に注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割意識のある人に対しては、無理のない程度の家事等を依頼している。又個々の趣味(絵画、音楽等)に合わせたものを提供し満足や喜びにつなげられるよう支援に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ戸外への散歩や車での外出の機会を多くするように心がけている。本人からはほとんど〇〇へ行きたいというような言葉はない	和菓子・寿司等の外食、食材の買出しに同行したり、お墓参り、自宅へ外泊、花見等の外出を支援している。また、散歩に出掛け農作業の地域の方々とも会話をしたり、図書館に出掛ける利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設ではほとんどの方が、自分でお金を持ったの管理はされていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分からは電話をすることができないため、家族の方から電話をかけてもらうよう依頼する時がある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に空調や照明には配慮している。又感性への働きかけとしてフロアの壁には、四季に応じた絵や折り紙を貼ったり、季節の草花を飾ったりして楽しんでもらっている	その日の状況によって空調・照明等が調整されており、毎日過ごしやすい環境・空間が作られている。職員が持参してくる季節の花、作り上げた作品を飾り、いつでも団欒できる大きなソファが配置され、日々ゆったり過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファコーナーがあり、気の合った人同士でテレビを見たり会話したりしている。その時の気分によって、自分の居室で過される人もある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭にいる時に使い慣れていた家具や物品等を家族の方に持参してきてもらっている	ベッドが配置されているが、希望があれば畳の部屋も用意できる。趣味で作ったぬいぐるみ、孫からの手紙、家族の写真等、また、筆筒、椅子等の家具品も持ち込まれ、各自、居心地良く過ごせる居室を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は入居者一人一人の出来る事、わかる事を共通認識し、声かけ、見守り、支援し、環境整備を行い、事故のないように自立を促している		